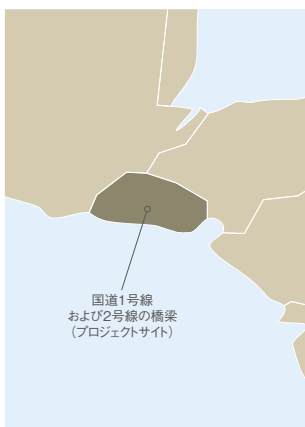


外部評価者：池野 雅文

総合評価 **B** 持続的成長に向けた基盤整備
地球規模問題・平和構築への支援



エルサルバドル 道路整備事業

内戦終焉後の基盤インフラ整備支援を通じて
中米地域の交易活性化に貢献

承諾額／実行額 103億3,200万円／103億3,200万円
借入契約調印 1994年5月
借入契約条件 金利3.0%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了 2004年12月
実施機関名 公共事業省 URL: <http://www.mop.gob.sv/>
道路保全基金(円借款対象部分の維持管理部門) URL: <http://www.fovia.com/>

本事業の目的

内戦中に破壊された2大橋梁の再建および首都圏周辺の幹線道路の整備を行うことにより、主要幹線における道路輸送能力の向上および首都周辺の交通渋滞の緩和をはかり、内戦後の復興・経済発展に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **評価a**

本事業により整備された幹線道路(国道1号線)および建設された橋梁(サン・マルコス・レンパ橋およびクスカトラン橋)について、国道1号線においては事業実施前比200%以上増の交通量の増加がみられると共に、サン・マルコス・レンパ橋における年平均交通量は事業実施前比345%増、クスカトラン橋では同262%増であり、交通需要に対応しているといえる。また、交通量は増加した一方で、所要時間は短縮しておりクスカトラン橋から首都サンサルバドル市内へ東西に抜ける場合には、最大81分短縮される。排水性舗装技術や落石防止などの安全対策にも配慮しており、交通事故数の減少に寄与していると考えられる。整備された道路・橋梁の役割は大きく、円滑な物



日本の技術を導入：周囲の自然環境および住環境への配慮をの排水性舗装技術(写真右)、および丘陵地を通過する道路のり面での落石防止、表面風化防止、景観保全を兼ねている土木技術(写真左)

資の輸送・物流の活性化などにより、2001年以降においてGDPは安定的にプラス成長を続けており、本事業の実施は同国の経済の安定化を下支えしているといえる。よって、本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **評価a**

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。国道1号線の整備および国道1、2号線上に存在する2大橋梁の再建設を行った本事業は同国の戦後復興を支え、更なる経済発展の基幹となることが期待されている。

事業実施の経済性(効率性) **評価c**

本事業は、事業費および期間について計画を大幅に上回ったため(計画比168%および217%)、効率性についての評価は低い。事業費増加および事業遅延のおもな要因としては、1998年の洪水・ハリケーンおよび2001年の大地震による自然災害による土砂崩れなどの復旧および再工事の発生等が挙げられる。

今後の展望(持続性) **評価a**

本事業は実施機関の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。道路の運営維持管理は、道路保全基金が担っており、その技術面に問題はない。

開発途上国専門家の意見

ハリケーン発生等の外部要因により事業完成までに時間を要したが、建設された道路や橋梁は交通時間の短縮や市場活性化等に貢献し、社会経済発展の基盤となった。

専門家の氏名：Mr. Francisco Molina (エコノミスト)
アメリカン大学修士(経済)。エル・サルバドル中央銀行のエコノミスト等を歴任し、現在、エル・サルバドル政府、国際機関、援助機関、民間企業のコンサルタントとして活動。専門は経済。